



ニシハツ Denyo グループ
株式会社
会社案内

ニシハツ Denyo グループ
株式会社

ニシハツのミッション

万が一の火災や災害時の支えとなる
高度な製品とサービスを通じて、
社会に安全と安心をもたらし、
お客様の信頼に応え続けます

非常用発電機のパイオニアとしての使命に徹し 社会の安全に貢献する企業ニシハツ

私たちの生活で欠かすことのできない電気、近年多発している
想定外の災害により停電のリスクも高まって来ております。

ニシハツは非常用発電機メーカーのパイオニアとして、日本国内の
多くのお客様から信頼をいただき、高い評価を得てまいりました。
この根幹は社是である「顧客第一・技術革新・法令順守・社会貢献」を、
常に社員一人一人が向上心を以て考え実行してきた結果と考えております。

自然環境、社会状況の変化や SDGs への取組によるお客様のニーズに
常に耳を傾け、これからもより良い製品とサービスを提供し続け、
社会の発展に貢献してまいります。

今後とも、より一層のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



代表取締役社長

野中美智夫



会社概要

商 号 ニシハツ株式会社 Nishihatsu Co., Ltd.
 設 立 1963年(昭和38年)10月11日
 本 社 所 在 地 佐賀県唐津市千々賀 140番地

資 本 金 50百万円
 株 主 デンヨー株式会社 100%出資
 売 上 高 9,518百万円(2021年3月期)

土 地・建 物 【土地】 工場 18,915㎡
 【建物】 事務所 1,300㎡
 工場 9,058㎡

従 業 員 数 198名(2021年6月現在)

事 業 内 容 各種自家発電装置及び各種自動制御盤の製造並びに販売
 自社製品の保全及び定期点検等のメンテナンス業務

取 引 銀 行 福岡銀行唐津支店 みずほ銀行佐賀支店 西日本シティ銀行唐津支店
 唐津信用金庫本店 佐賀銀行唐津支店

役 員	代表取締役会長	有 満 文 俊	代表取締役社長	野 中 美 智 夫
	常務取締役	山 口 浩 寿	取 締 役	青 木 弘 治
	取 締 役	小 杉 稔	取 締 役	堀 田 哲 生
	取 締 役	馬 場 崎 和 久	監 査 役	江 藤 陽 二
	監 査 役	田 辺 誠		



ISO9001 認証所得
 (各営業所を除く)

沿革

1963年(昭和38年)10月	佐賀県唐津市二タ子町に資本金3百万円にて西日本発電機株式会社を設立
1965年(昭和40年)3月	溶接用直流発電機を開発し、ニシハツウエルダーとして生産販売を開始
1966年(昭和41年)11月	販路拡大に伴い鹿児島営業所を開設
1967年(昭和42年)4月	東京営業所を開設し貿易業務を開始
1969年(昭和44年)1月	資本金を5百万円に増資
11月	唐津市千々賀1-1に本社及び工場を新築移転
1990年(平成2年)6月	阪和興業株式会社が全株式を取得し、資本金を50百万円に増資、子会社となる
1999年(平成11年)4月	常用自家発電装置、常用防災兼用発電装置の工場認定取得
7月	150kW 常用発電装置の販売開始
2002年(平成14年)11月	ISO9001認証取得
2003年(平成15年)3月	北九州営業所を福岡営業所に併合
2006年(平成18年)11月	消防法に適合する防災用自家発電装置Lクラスの追加取得(500kW 1000kW以下)
2007年(平成19年)4月	名古屋営業所を開設
6月	デンヨー株式会社が全株式を取得し、子会社となる
2013年(平成25年)10月	大型製品工場を増設
2017年(平成29年)10月	仙台出張所を開設
2018年(平成30年)4月	広島出張所を開設
10月	社名をニシハツ株式会社に変更
2019年(令和元年)9月	沖縄駐在所を開設

本社・営業所所在地

本社・工場

〒847-0831
佐賀県唐津市千々賀 140 番地
TEL:0955-78-1115 FAX:0955-78-1616
URL:<https://www.nishihatsu.co.jp>

本社・メンテナンス部 TEL:0955-78-1815 FAX:0955-78-1172

東京営業所

〒103-8566
東京都中央区日本橋堀留町 2-8-5 デンヨービル 6 階
TEL:03-3662-2151 FAX:03-3662-2153

仙台出張所

〒983-0014
宮城県仙台市宮城野区高砂 1-30-14
TEL:022-290-9540 FAX:022-387-1261

大阪営業所

〒660-0822
兵庫県尼崎市杭瀬南新町 3-1-5
TEL:06-4868-5640 FAX:06-4868-5650

名古屋営業所

〒465-0012
愛知県名古屋市名東区文教台 2-806
TEL:052-726-8270 FAX:052-726-8260

福岡営業所

〒812-0013
福岡県福岡市博多区博多駅東 2-2-11 ビジネス・ワン筑紫口ビル 5 階
TEL:092-483-4211 FAX:092-483-4231

広島出張所

〒733-0833
広島県広島市西区商工センター 5-10-15
TEL:082-208-3304 FAX:082-208-3305

鹿児島営業所

〒890-0052
鹿児島県鹿児島市上之園町 24-2 第 12 川北ビル BOIS 鹿児島 302 号室
TEL:099-812-8701 FAX:099-812-8705

沖縄駐在所

〒900-0004
沖縄県那覇市銘苅 2-8-9 ルシェ口新都心 201 号室
TEL:080-8569-1838 FAX:098-943-1190



本社・工場



本社地図

BCP発電装置の設置について

◆BCPとは

2005 年 8 月 内閣府中央防災会議「事業継続ガイドライン 第一版」、及び
2006 年 2 月 中小企業庁経営安定対策室「中小企業 BCP 策定運用指針」にて策定されました。
BCP (ビーシーピー) とは、「Business Continuity Plan」の頭文字をとった略語のことで、
「事業継続計画」と呼ばれます。企業が事故や災害などの緊急事態に直面した場合に、

- ・ 人命を守るなど資産への損害を最小限にとどめること
- ・ 事業の継続あるいは早期復旧を可能とすること

の2つを目的として、「事前に行うべき準備」や「緊急時における事業継続のための方法」を
取り決めた計画になります。

◆BCP 発電機の重要性

前述の通り、企業活動を行ううえでの BCP が注目されていますが、
事故や災害などの緊急事態に電力の供給が途絶えた場合は、

- ・ 企業の事業所や工場等の施設においては設備が稼働できず事業を継続することできない
- ・ 復旧作業がなかなか進まない

という事態を招く恐れがあり、事業継続の進捗を大きく左右することになります。
そこで、各設備に電力を供給して施設や機器を一刻も早く稼働させる事で、
事業の継続や復旧を進めるために必要不可欠な電力供給源としての、
非常用発電装置（BCP 発電機）の導入が非常に重要となります。

導入に際しては、各自治体などからの助成制度がある場合がございます。



BCP発電装置納入事例



▲型式：PX-95ESR(B)/ 唐津市立小川小中学校様



◀型式：SL-225MSR(B)-NCG/ 福岡銀行糸島支店様



▲型式：PX-450VSR(B)/ 西日本シティ銀行ココロ館様



製品紹介

ニシハツ自家発電装置は、
防災用のほか、コンピュータ・無線通信・
ダム及び各種養殖場などの停電対策の
一般非常用としても高い評価を得ています。



三相非常用自家発電装置

型 式: PX2-47YSR(B)
周 波 数: 50/60Hz
電 圧: 200V/220V・400V/440V
出 力: 43kVA/47kVA
寸 法: 全長 1775 mm x 全幅 850 mm x 全高 1540 mm
質 量: 740kg
低騒音タイプ / 85dB以下

ニシハツ三相非常用自家発電装置は、消防法の自家発電設備基準に適合した、
一般社団法人 日本内燃力発電設備協会の認定品です。
容量別に 20kVA ~ 1250kVA、また形状別に屋内オープン型・キュービクル型・低騒音キュービクル型・
超低騒音キュービクル型の4シリーズを取り揃えており、
目的および用途に応じて最適な機種を御用意致しております。



単相非常用自家発電装置

型 式：SL2-110KSR(B)
周 波 数：50/60Hz
電 圧：100V
出 力：10kVA/10kVA
寸 法：全長 1440 mm x 全幅 850 mm x 全高 1520 mm
質 量：590kg
低騒音タイプ / 85dB 以下

トランスを使用しない単相出力の発電機、情報通信分野に携わる官公庁の予備電源等に最適な機種です。三相発電機から単相電源を取り出すには、別途スコット・トランスが必要で回路も複雑なので、電流がアンバランスになり電圧も不平衡になり、負荷の適正電圧に支障をきたします。それに比べて単相発電機は商用電源と同相・同電圧で適正な電源切換えと送電ができるため、安定した運用が可能です。



CVCFタンデム非常用自家発電装置

型 式：APX-50S/5TMSR(BB)-NCG
周 波 数：50/60Hz
電 圧：200V/220V・400V/440V
出 力：単相50kVA/三相5.0kVA
寸 法：全長 4080 mm x 全幅 1240 mm x 全高 2555 mm
質 量：3350kg
低騒音タイプ / 75dB 以下

単相と三相を同時出力のタンデム発電機、定電圧・定周波・低波形歪率の高性能 CVCF 発電機です。単相と三相は完全に回路独立、三相負荷（モーター）投入時の電圧降下の影響を受けません。三相負荷を入・切しても単相電源は安定、三相はシャッターや揚水ポンプに利用できます。電源性能は、電算端末機などの高性能電源要求を満たし、コンピュータやオンライン端末機・医療・精密機器の予備電源等に最適です。



移動用電源車

高圧：300kVA/500kVA
低圧：75kVA/100kVA

発電機とそれを回すためのエンジン、送電に必要なケーブルなどを装備、電気を必要とする場所へ移動して発電・送電することができ、機動性に優れた非常用電源として、災害などの非常時の仮設電源や停電発生時の事業用電源確保で活躍します。ニシハツの移動用発電車はオーダーメイド制です。お客様それぞれのニーズに最大限お応えできる実現可能な案を提案させていただきます。どうぞお気軽にご相談下さい。

その他のスペックも取り揃えております。
製品カタログをご覧ください。

メンテナンスサービス

◆保守、メンテナンスの重要性

非常用発電設備は常時動作している設備ではなく停電時に商用電源(電力会社供給電源)の代りとなる電力を作る設備です。

通常停電が発生した場合は自動起動し、電力を非常用設備へ供給したり、病院では医療機器等にも供給しているケースもあります。しかし、起動しなかった場合はこのような供給ができず、火災停電となればスプリンクラー等による初期消火ができません。

定期点検を怠った事により、燃料切れや起動不良等で非常用発電設備が機能していなかった事例が多く報告されています。

定期点検を行う事で、劣化部品の早期発見、正常な状態維持が可能になります。

◆消防庁告示第12号による、非常用自家発電設備点検の変更について

一年に一度の総合点検の運転性能確認方法は、「負荷運転」のみでしたが、これに代えて行うことが出来る点検方法として、2018年6月1日より「内部監察等」が追加されました。

内部監察とは、エンジン分解(簡易オーバーホール)による性能確認=状態の観察です。また、運転性能の維持に係る「予防的な保全策」が講じられている場合には、「負荷運転または内部監察等」による運転性能確認実施間隔を最長6年まで延長することが可能となりました。

潤滑油、冷却水(クーラント)、潤滑油フィルタ・燃料フィルタ、ファンベルトなどの点検及び交換=定期メンテナンスです。

サービスネットワーク

弊社サービス会社は全国に92社(2021年4月現在)
ニシハツ製品の点検、修理、保守部品等については、
お近くのサービス会社へお問い合わせください。
なお連絡先等は、ニシハツホームページ
<https://www.nishihatsu.co.jp>
製品保守のページからサービスネットワークをご参照ください。



非常用発電設備の保全基準

当社では、日本内燃力発電設備協会の自家用発電設備保全基準、及び全ての法定点検の技術基準に合致すると共に、これにメーカーとしての専門的な角度から見た点検項目等を付加した独自の保全基準を制定しています。この基準は、非常用発電設備の予防保全を目的とし、点検の種類を大きく5つに分類しています。

日常点検

自家用発電設備専門技術者により、運転待機状態及び始動時間を確認し、さらに運転操作・始動に際しての異常の有無・外観点検・機能点検を行います。

半年点検

保安規程による日常点検を含み1ヶ月以内の始動運転点検をいい、いつでも設備に電力を供給できる状態を保つために実施いたします。

1年点検

専門技術者による発電設備全体の機能・性能を維持していくための確認を行うものです。入念に部品・機材等の点検、手入れ、調整、交換等を実施し、翌年までの機能及び性能を維持できることを確認いたします。原動機は、各フィルタ等（消耗品）を交換し試運転を行って、自家発電設備が正常に維持されていることを確認いたします。

6年点検

半年点検および1年点検で発見できない経年劣化部分を主に点検し、機器部品の劣化等の発見、損耗部品の修復、もしくは交換を実施いたします。

12年点検

6年点検で発見できない経年劣化部分を主に点検し、機器部品の劣化等の発見、損耗部品の修復、もしくは交換を実施いたします。

メンテナンスに関するお問い合わせは、最寄りの営業所、協力会社へ御連絡ください。

